

台湾と沖縄

帝国の狭間からの問い

講師：駒込武さん（京都大学大学院教育学研究科教授）

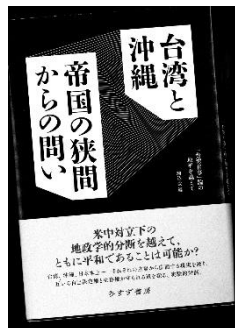
専攻は教育と学問の歴史、台湾近現代史。著書に『世界史のなかの台湾植民地支配』（岩波書店、2015年）、編著に『生活綴方で編む「戦後史」〈冷戦〉と〈越境〉の1950年代』（岩波書店、2020年）『台湾と沖縄 帝国の狭間からの問い』（みすず書房、2024年）、訳書に呉叡人著『台湾、あるいは孤立無援の島の思想』（みすず書房、2021年）など。



日時：2025年5月31日（土）14:00～17:00

地下鉄 京都市役所前
下車、河原町通り
南に2分

場所：河原町カトリック会館 地下2階大ホール



ウクライナ戦争以後、日本政府は「台湾有事」に備えるべきだとして沖縄を含む南西諸島の軍事化を進めています。他方、リベラル・左翼勢力は「有事」など虚構であるとして批判しています。どちらの論にしても、台湾や沖縄の人びと自身がこの現状をどのように認識し、どのように打開しようとしているかという問題がほとんど抜け落ちてしまっていると感じます。

「台湾有事」を絶対に起こしてはならないのは当然として、「台湾有事」論の地平を越えて、日本を含む大国に翻弄されてきた台湾や沖縄の人々の歴史と現在から発する問いかけにまず耳を傾けてみたいと思います。あわせて、植民地支配下の台湾における神社参拝の強要、戦後日本政府による台湾人政治犯強制送還などの歴史的事件とカトリック教会とのかわりについてもふれたいと思います。（駒込武さんより）

お問合せ

京都教区カトリック正義と平和協議会

Tel. 075-223-3340（月・火・木曜日 10:00～16:00）

e-mail:seiheiky@kyoto.catholic.jp

主催：京都教区カトリック正義と平和協議会